

- 26-6-7-③ 第15回実践ME技術講習会 実施報告
- 26-6-7-④ 第2種ME技術実力検定試験上海会場についての覚書
- 26-6-8 第12回生体医工学サマースクール計画概要
- 26-6-9-① IFMBE 各国学会代表者の会合の案内
- 26-6-9-② The IFMBE Asian Pacific Research Network Fellowship Grants について
- 26-6-9-③ 今後の World Congress 開催地について
- 26-6-10 2015.3.13 理事会 編集関係 資料
- 26-6-11 名誉会員推薦の件
- 26-6-12 日本生体医工学会公益法人化の作業に関して
- 26-6-13 平成27年度収支予算書案（資金収支ベース、管理費配賦前）
- 26-6-14 日本生体医工学会大会あり方委員会
- 26-6-15 第54回日本生体医工学会大会
- 26-6-18-① 大会開催にあたっての参加費・招待者の対応について
- 26-6-18-③ 北海道・東海支部長交代について
- 26-6-18-⑤ 他団体との後援・協賛状況
- 26-6-18 日本生体医工学会利益相反自己申告書 案 v1

<議事>

1. 理事会成立の件（大城理事）

- 成立要件を満たしていることを確認し、開会を宣言した。

2. 前回議事録承認の件（大城理事）

- 議事録を確認した。

3. 入退会状況の件（大城理事）

- 回覧資料および資料26-6-3にて入退会状況を確認した。

4. 理事・監事選挙結果報告（伊関理事）

- 資料26-6-4に基づき結果が報告され、承認された
- 各候補者の意思については、事務局が確認することとした

5. 平成26年度各賞応募結果と選定状況について（村垣理事）

- 資料26-6-5-①に基づき研究奨励賞の選定結果が報告され、承認された。
- 資料26-6-5-②に基づき新技術開発賞の選定結果（企業名＋個人名）が報告され、承認された
- 資料26-6-5-③に基づき荻野賞の選定結果が報告され、承認された
- 論文賞の選定状況について報告があった

6. 第3回生体医工学科連絡委員会報告（大城理事）

- 資料26-6-6に基づき報告があった。
- 2015年度の活動計画および予算が承認された。
- 新委員となる幹事（植野）が、次回の委員会出席時にグルーピングの主旨を確認することとした。

7. ①,② 臨床ME専門認定士の新規認定および更新について

- 資料 26-6-7-①, ②に基づき報告があった。
- 猶予期間内申請制度について不明確な点があることから、概要・適用基準について事務局と大須賀理事に調査いただき、次回理事会にて報告いただくこととした

7. ③ 実践 ME 技術講習会について（大城理事）

- 資料 26-6-7-③に基づき第 15 回講習会の報告があった。
- 第 16 回講習会実施案が承認された。

7. ④ 第 2 種 ME 試験・上海会場開催に伴う覚書について（佐久間理事長）

- 資料 26-6-7-④に基づき覚書案が審議された。
- 覚書案について、以下の指摘があった
 - ◇ 論文（中国語可）を持ち帰って誰が採点するのか不明である
 - ◇ 上海会場実施委員会委員長が誰か不明である
 - ◇ 先方の責任者が分からないのは問題ではないか
 - ◇ 本来は、日本側の責任者が本学会理事長、中国側は中国生体医工学会長であるべきではないか
 - ◇ 本学会の承認後に中国側に送付する順序では、本学会が勝手に動いたと誤解される恐れがある
 - ◇ 運営事項のみで、主旨や対象が書かれていない
 - ◇ 日本側の委員長名に本学会の名称も書かれていない
- 上記の議論を踏まえ、以下の項目に対応いただいた後に、再度審議することとした
 - ◇ 乙が誰になるのかについての情報提供
 - ◇ アカデミックな覚書である点も考慮した、実施目的の記載
 - ◇ 中国生体医工学会への事前提出（試行的に実施する場合でも）
 - ◇ 担当理事（大須賀理事）への説明
 - ◇ 理事会での説明、あるいは、電話での理事長への説明

8. 第 12 回サマースクール計画概要（大城理事）

- 資料 26-6-8 に基づき説明があった
- 以下の意見ならびに情報提供があった
 - ◇ 大学院入試と時期が重なる国立大学もあり参加者が集まるか不明ではないか
 - ◇ 事務局担当教員は日程の件を把握している
 - ◇ 一般参加者の参加費を上げる（3 万円程度に）ことを次年度に検討して欲しい
 - ◇ ここ数年は景気が良いが 3 万円は高いかもしれない
- 計画が承認された

9. ① IFMBE からの招待について（椎名理事）

- 資料 26-6-9-①について説明があった
- 理事 3 名（佐久間理事長、砂川理事、椎名理事）が出席することとした

9. ② The IBME Asian Pacific Research Network Fellowship Grants について（椎名理事）

- 資料 26-6-9-②に基づき以下の説明があった
 - ◇ 第 1 次公募：応募なし
 - ◇ WC2015 の不切延期に伴う第 2 次公募：応募なし

◇ 日本での活動に対する前回参加者への協力要請：確認済み

- 山家理事の所のポスドクに参加を打診することとした。
- 上記のポスドクが演題登録未了である件については、椎名理事が主催者に事情を説明することとした

9. ③ 今後の World Congress 開催地について（椎名理事）

- 資料 26-6-9-③に基づき、以下の説明があった
 - ◇ JSMP は 2024 年大会の日本誘致を目指したい
 - ◇ JSMP より協力依頼があった
 - ◇ 本学会としても協力したいと回答
- 今後、JSMP との定期的なミーティングが必要ではないかとの意見があった
- WC2015（トロント）の際にも、2024 を考えている旨を伝えることとした

10. 編集状況（木村理事）

- 資料 26-6-10 に基づき、以下の報告があった
 - ◇ 出版状況
 - ◇ ABE への電子投稿システム導入の現況
 - ◇ PMC(PubMed Central)への収載に向けた作業状況
 - ◇ 2014 年度の活動内容
- 資料 26-6-10 に基づき、以下の 3 点に関連した投稿規定の改定について審議が行われ、承認された
 - ◇ 生体医工学に対する投稿言語を日本語に限定する
 - ◇ 倫理承認が必須であることを明記する
 - ◇ 学会予稿も多重投稿に含まれる
- 資料 26-6-10 に基づき、2015 年度予算について審議が行われ、承認された

11. 名誉会員推薦の件（大城理事）

- 推挙された伊関洋先生、楠岡英雄先生、砂川賢二先生について、名誉会員となることが承認された
- 楠岡先生は入会が古すぎて登録情報がないため、念のためご本人に会員歴を尋ねることとした
- 名誉会員の会費についての質問があり、会長一任であるとの回答が事務局よりあった
- 理事、監事の年齢制限について、定款に記載があることを確認した
- 砂川理事が国際担当理事から外れることから、WC2015 に参加して貰う理事を交代するかについては理事長が検討することとした

12. 公益法人化の作業に関して（阿部監事）

- 資料 26-6-12 に基づき説明があり、以下の点が整理された
 - ◇ 公益法人へ移行する件は、前期の理事会で決定している
 - ◇ 定款は、公益法人に整合するように変更した
 - ◇ 残るは財務構造の整合のみである
 - ◇ 財務構造を一度調整したが、1 年延期した関係で再調整が必要である
 - ◇ 公益法人の財務では、繰越金が決算よりも大きくなってはいけない
 - ◇ 一昨年度の年次大会収入が今年度に振り込まれるため、今年度の収入として決算を出す
 - ◇ 今年度の収入が上記の特殊事情により増えるため、試験事業が昨年度と同程度の黒字となった場合に、遊休財産額が上限を超える恐れがある

- ◇ 回避のため財務構造の調整法について審議する必要がある
- ◇ 特定資産に移した場合、特定資産に税金は掛からない
- ◇ 法人の運営としては優良である
- ◇ 定款改定 WG の委員として阿部監事は動いている
- 財務構造の調整法については、予算を確認してから再度議論することとした

1 3. 平成 27 年度予算案について（松田理事）

- 資料 26-6-13 に基づき説明があり、以下の意見が出た
 - ◇ IFMBE Travel の支出を入れておく必要がある
 - ◇ 学会賞取り崩しの収入を投資活動収入に入れる
 - ◇ 支出の欄に補助金返却費 0 円を名目に入れる
 - ◇ 生体医工学シンポジウムの寄付金が何かを確認する（繰越金なら計上する必要はない）
 - ◇ 今年度の生体医工学シンポジウムはこのままとし、来年度から繰越なしとしてはどうか
 - ◇ ME 試験は、監督・試験補助員が少ないとの指摘もあり、適切な人数にしていく必要がある
 - ◇ ME 試験のアルバイト代の額も低く抑えており、人数を確保し難しくなっている
 - ◇ 事業計画は予算案をみて委員会なども検討していただく
 - ◇ 会員数が源泉だと考えると、研究者を増やすプロモーションが必要。研究者増のための具体的アクションを、予算をつけてやるべきではないか
 - ◇ 生体医工学科連絡委員会には東北大や東大が入っていない。若手育成の次の手を考える必要がある
 - ◇ 若手育成という観点では生体医工学シンポジウムとサマースクールは機能している。サマースクールの学生参加費を安くして、定員を増やしてはどうか
- ME 試験の予算書の形骸化が懸念されるため、大須賀理事が調査することとした
- 若手育成については、野村理事が検討することとした
- ME フォーラム（政府関係者を呼んだ講演会）については、理事長、山家理事の協力のもと、村垣理事が検討することとした

1 4. あり方委員会（山家理事）

- 資料 26-6-14 に基づき説明があり、以下の補足説明があった
 - ◇ 次々回および次々次回の大会開催場所の候補については、次回理事会の際に検討したい
 - ◇ 後日メールでも構わないので意見いただければ反映したい
- 大会に対する補助金額は、現在の 150 万からの増額も考えられるか質問があった
- 学会屋の利用は必須でないことを確認した

1 5. 第 5 4 回大会（岩田大会長）

- 資料 26-6-15 を用いて大会準備状況が説明された
- 5 月 6 日に理事会を実施することが決定した

1 6. 第 5 5 回大会（大城理事）

- 大会長からの伝言として、大会実施への助言があれば頂きたい旨が伝えられた

1 7. 大会開催にあたっての参加費・招待者について（松田理事）

- 資料 26-6-18①を用いて説明があった

- 次の大会からの適用になる事を確認した

18. 古川俊之先生（名誉会員）の追悼文について（理事長）

- 一番近い先生にご担当頂くのが良いとの方針を確認した
- 長倉俊明先生あるいは石原理事が担当することに決定した
- 編集部より依頼文を送付することとした

19. 北海道・東海支部長交代について（大城理事）

- 資料 26-6-18③に基づき説明があった
- 支部長の交代が承認された

20. 平成 27 年度九州支部学術講演会開催報告（樗木支部長、代読 大城理事）

- 開催報告が口頭で行われた
- 問題点として、工学系の比率が大きく医学系の支部長候補者が枯渇している点が報告された

21. 協賛等の状況（資料回覧）

- 資料 26-6-18⑤の回覧があり、協賛等の状況について確認した

22. その他

- 伊関理事より医師主導治験の実施について学会推薦の依頼があり、了承された。併せて、本学会が日本医学会に属していることで可能となるこの機能について、改めて重要性を確認した。また、会員増に活用してはどうかとの意見があった
- 石原理事より第 5 回日本医学会分科会利益相反会議の出席報告があった。また、資料に基づき利益相反自己申告書案の説明があった
- 次回理事会を 4 月 10 日、3 時～5 時、京都大学（あるいは京都駅前）にて実施することが決定した